

無題

ぼくはゆつくりと  
うみのいりぐちをみあげる  
せかいのはてから  
せかいのはてまで  
ふかい  
そこぬけの  
あお  
えいえんに  
ひろがつて

ぼくはめをとじる  
あおをつらぬく  
やわらかなひかり  
まぶたのうちから  
ぼくのきおくにながれこむ

どこまでもすきとおるひかりは  
くうきとなみにゆれて  
なにかたいせつなものを  
しずかにあきらめたみたいに  
ゆらうり  
ゆらうり  
ときにからだを  
ゆだねたままで

ぼくは  
せんねんのあいだ

うもれたまちと

ここにいる

もうみんないってしまった

ぼくはひとりだ

せんねんのあいだ

みなもにあがろうと

たゆたうひかりをながめてた

なんにもすべりこむすきのない

かんぺきな

おそろしい

しずけさに

ぼくはぼくの死をおもう

ぼくはせかいの死をおもう

無題

たていとはじかんに  
よこいとはきおくに  
しずかに

しずかに  
そめられてゆきました

かさなりあつた  
ふたつのいとは  
ていねいに  
ていねいに  
おられてゆきました

ぶつとりと  
たていとがとぎれたとき  
するすると  
よこいともほどけてゆきました  
おだやかに  
とてもおだやかに

それは  
ことばもなく  
うつくしく  
かなしみにみちた  
まぼろしのようなさまでした

## 無題

テレビにうつるのは

大きな地震でぐちゃぐちゃの村

戦争でめっちゃめちゃの街

家族をさがす人々の顔

憎しみを超えた悲しみ

悲しみを超えた絶望

絶望を超えた諦め

諦めを超えた無

だけどテレビにうつるのは

現実をつぎはぎしたイメージ

誰かの作った虚構

ある映像が戦争を反対し

同じ映像が戦争を賛美する

映像に加えられた言葉や音楽は

自在に現実を変化させるトリック

テレビにうつるものから

真実を見極めるのはぼく

そしてテレビのスイッチを消す

部屋に残るのは深い沈黙とぼくの思考

テレビは想像しない

想像するのはぼく

そして目を閉じる

ぼくに残るのは深い暗闇とぼくの思考

人々の憎しみや悲しみを想像する

ぼくは傷つく

そして

傷つけることの痛みと

傷つけられることの痛みを知る